

鎌倉地区産業廃棄物対策協議会

かいほう

NO.34



かながわ環境整備センター（ひっ迫している産業廃棄物最終処分場の確保を推進するため、県立県営の産業廃棄物最終処分場として平成18年6月に開設されました。）

目次

○巻頭言	1	○企業紹介	6
○神奈川県からのお知らせ	2	○事業報告	6~7
○鎌倉市からのお知らせ	3	○編集後記	7
○研修見学会報告	4~5		

巻頭言

「一年を振り返って」



鎌倉地区産業廃棄物対策協議会

会長 加藤 政 裕

(中外製薬(株) 鎌倉研究所)

陽春の候、会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また平素より、当協会事業の運営につきましては格別のご支援、ご協力を賜り心からお礼申し上げます。

昨年2018年を振り返りますと、スポーツにおいて日本人の多くの活躍が話題に上がりました。その中でも冬季五輪平昌大会での1998年長野大会を上回るメダルの獲得や、テニスの大坂なおみが全米オープン優勝・日本人の初四大大会制覇の話題も皆様の記憶に新しいと思います。

産業廃棄物に目を移しますと、昨年は大きく報道された事件はなく、皆様安堵されたと思いますが、近年増加傾向にある産業廃棄物石膏ボードの不法投棄による「排出事業者責任」が追及される事例が起こっていました。

2014年に鹿児島県で中間処理業者による石膏ボード約8,500m³の不法投棄が発覚しました。その中間処理業者は県からの「措置命令」に応じず、その結果、昨年7月に説明会が開催され、500社に及ぶ排出事業者へ自主撤去が求められています。排出責任者にとっては2重の費用負担、さらに雨水等により石膏ボードが含水し、リサイクルができない為の処理費用がアップ、予想外の出費が求められています。(推定処分費：3.5万円/m³、総計：約3億円)

改めて排出事業者の責任の重大さを認識した事例でした。石膏ボードは腐敗により硫化水素ガスが発生する為、早急な解決を願っています。

当協議会では、会員事業者相互に情報を交換しながら適切な排出事業者の責務を果たして行けるよう取り組んでいきたいと考えます。

結びになりますが、協議会と会員各事業所のますますのご活躍とご発展をご祈願申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

神奈川県からのお知らせ

高濃度PCB廃棄物、使用製品の 処理期限が迫っています！！

1. PCBの処分には、事前の確認が必要です

PCB廃棄物の処分については、濃度により処理期限が異なります。濃度が不明の場合は、事前に分析を行って下さい。(機器に取り付けられた銘板から濃度を判別できる場合もあります。)

高濃度PCB廃棄物 処理期限 2022年3月31日まで
(照明器具の安定器等については、2023年3月31日まで)
低濃度PCB廃棄物 処理期限 2027年3月31日まで

2. JESCOへの登録はお済みでしょうか？

高濃度PCB廃棄物の処理はJESCO(中間貯蔵・環境安全事業株式会社)で行っています。神奈川県の処理期限は、使用をやめた高濃度PCB廃棄物だけでなく、使用中の高濃度PCB使用製品に対しても適用されます。なお、処理を依頼する際、JESCOへの機器登録が必要になりますのでご注意ください。(使用中の高濃度PCB使用製品も機器登録できます。)

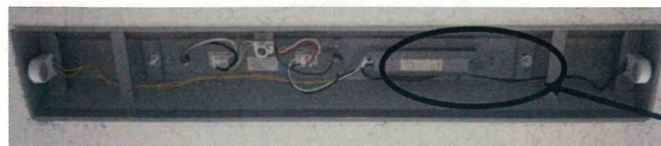
この機会に貴社の高濃度PCB廃棄物・使用製品の登録状況をご確認ください。

JESCOのホームページ (<http://www.jesconet.co.jp/>)

3. 照明器具の安定器の高濃度PCB含有の有無は確認しましたか？



カバーを外すと



これが照明器具の安定器

(注：写真は一例です。写真の安定器にはPCBは含まれていません。)

照明器具の安定器にも高濃度PCBが含まれている可能性があります。安定器は、電気工作物に当たらないため、高濃度PCBを含む安定器の発見が遅れるケースが見られます。貴社の事務所等に設置されている照明器具の安定器に高濃度PCB使用製品が含まれていないか、今一度ご確認をお願いします。(安定器の銘板からPCBの有無が確認できる場合もあります。)

★本記事の内容全般に関する問い合わせ先

神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター 環境部環境課 046-823-0377 (直通)

鎌倉市からのお知らせ

鎌倉市環境部ごみ減量対策課

日頃からごみ行政にご協力いただき、ありがとうございます。

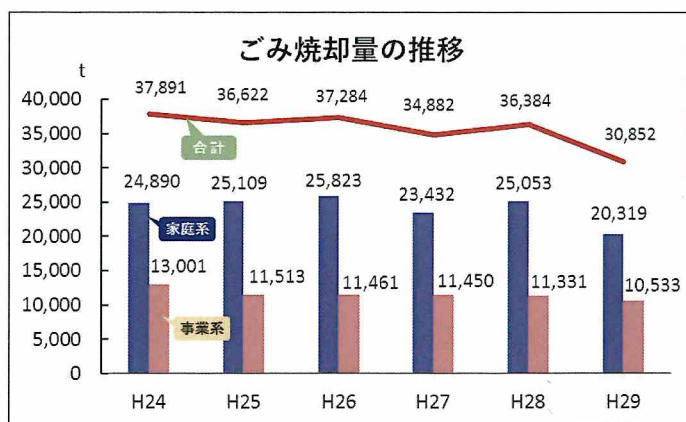
鎌倉市は、環境負荷の少ない「循環型社会」を形成するため、市民、事業者、行政が連携・協働して3Rを推進して「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現を目指しております。

■事業系ごみの状況

平成29年度の本市の焼却量は目標値31,038トンに比べて約186トン減少され、30,852トンとなり目標を達成することができました。

このうち、事業系燃やすごみの焼却量は平成29年度10,533トンで、平成28年度と比べて約798トン、約7パーセント減少しました。平成30年度は12月末時点で、平成29年度と比べて搬入量が約4.6パーセント減少している状況です。

市のごみ処理施設では、事業系ごみ(燃やすごみ)の搬入物検査を行っていますが、まだ資源化できる紙類などの混入が見られますので、引き続き、適正な分別にご協力をお願いします。



混入物写真(紙類)

■プラスチックごみ削減の取り組みについて

神奈川県は9月に「かながわプラごみゼロ宣言」を発表しました。鎌倉市も10月1日に「かまくらプラごみゼロ宣言」を行い、神奈川県と連携、協調を図りながらこれまでの取り組みを強化し、ゼロ・ウェイストの実現、さらにはSDGsの目標を達成できるよう取り組んでいきます。

事業者、社員の皆様もできることからプラスチックごみ削減のご協力をお願いします。

- 1 マイボトル・マイバックを持ちましょう
- 2 プラスチック製の使い捨て商品は使わない
- 3 繰り返し使える商品を選ぼう
- 4 生産、流通、販売工程での使い捨て物品の削減

研修見学会報告

東京ガス(株)扇島LNG基地、かなわが環境整備センター 研修見学会

■研修日 2019年2月22日(金)

■参加者 14名

■共 催 鎌倉商工会議所工業部会

今回の研修見学会は、まず横浜市鶴見区扇島の東京ガス株式会社扇島LNG基地施設を訪問しました。午前中は好天に恵まれスルガ銀行鎌倉支店前をバスで出発し、加藤会長、事務局の挨拶があり、横横、横羽高速道、産業道路を通り予定より少し遅れ最初の施設に到着しました。扇島LNG基地に行くには、JFEスチール株式会社 扇島正門から約3キロJFE敷地内を行ったところにあります。



扇島LNG基地に到着すると、職員の方に出迎えられ大型モニターが備えられた室内に案内されました。神奈川西支店 野口支店長より挨拶と東京ガス(株)LNG基地の概要説明があり、岡山様よりビデオ映像を交えた、エネルギー供給事業と基地構内の説明がありました。



扇島LNG基地は1998年の運転開始以来、LNG(液化天然ガス)を主原料とし都市ガスや電力を首都圏に供給されておられます。基地の敷地は31万㎡で50億㎡/年の都市ガスを生産されています。LNGの受入は全長410mの海上栈橋からアンローディングアームが輸送船と接続され全長2000m深さ60mの万一漏れても安全を考慮した窒素が入ったシールドトンネルに設置された溶接構造の配管を通して地下タンクへ送られます。タンクは4基あり最も大きいもので、大阪城がそのまま入る25万KL覆土式で2013年から、3号基は2003年から稼働しているそうです。受け入れられたLNGは気化、付臭の過程を経て都市ガスとして供給されています。また基地内の扇島パワーステーションでLNG火力発電が行われています。運転・監視は都市ガス製造も含め基地内のコントロールセンターから24時間365日体制で行われています。

構内の案内に先立ちLNGの特徴を「冷熱実験」を行って見せて頂きました。LNGが水に触れると直ちに気化する実験、カーネーションやゴムボールをLNGに入れると瞬時に凍り脆くバラバラになる、またステンレスボールが収縮する実験、LNGを燃焼させてもススがほとんど発生しない実験が行われ-162℃のLNGを体感しました。それから構内を天然ガス燃料バスで移動しながら見学しました。最初にLNG船が着岸するシーバース形式186本の鋼管杭が使用された栈橋を中間立坑から見学。オーストラリアから18日間かけて運ばれたLNGの受入が行われていました。それか

ら10mの盛り土がされた地下タンク設置施設へ。辺りは芝が植えられ配管は地面より低く設置され、巨大なタンクがあるとは思えない景観でした。次に気化器、付臭装置を見学して、火力発電が行われている扇島パワーステーションをバスの中から見学し室内へ戻って質問タイムがあり見学を終えました。

職員の方に、JFE扇島正門まで送って頂き基地を後にして再び横須賀方面へ。

昼食は横須賀魚市場の魚がし食堂はま蔵で取り、次に訪問する横須賀市芦名に神奈川県が設置した、かながわ環境整備センター施設へ向かいました。

予定時刻より少し到着が遅れ、小雨が降り始めるなか、職員の方に迎えられ室内へ。高橋センター所長の挨拶の後、大塚様より施設の概要説明がありました。かながわ環境整備センターは3か所ある神奈川県の産業廃棄物最終処分場で神奈川県が設置、運営する唯一の施設です。住民、県民、事業者と連携・協力し安全性のモデルとして、民間施設の設置を推進する施設をめざし始められたそうです。運営開始から13年間毎月住民へのデータ公開は続けられていて、安全、信頼、公開をモットーとされています。施設全体の埋立容積は約75万 m^3 で現在約54万 m^3 、月約2万ton受入、埋立が完了するのは2028年度だそうです。埋立てられた跡地は、都市計画道路芦名線の建設及び周辺敷地の緑化復元を予定されています。こちらの処分場は、もともと川が流れていた場所で細長く深い場所です。埋立て前には埋立区域からの浸出水が区域外に漏れないように頑丈なシート等のしゃ水施設が設置され、万一漏れた場合には電氣的漏水システムが検知します。また地下水質は定期的にチェックされています。埋立は粉じんを飛散させないよう適時散水しながら廃棄物と覆土を交互に積み重ねていきます。また地震対策も万全に行われています。浸出水の処理は、ダイオキシン類等の除去も行える装置を設置されて行われています。

説明を終え、まず浸出水処理装置を見学しました。施設地下には10m×20m×5mの調整槽が4基設置され、ダイオキシン除去装置や活性炭処理装置・キレート処理装置等が設置された部屋を案内して頂きました。それから埋立地を往復30分徒歩で見学しました。徹底した審査を行って受け入れられた廃棄物は、計量され一ヶ所にまとめられてそれをダンプ等に積替えられ埋立場所へ運ばれていました。埋立て場所は深く、持ち込まれた廃棄物の埋立場所が分かるよう運搬通路を確保しながら埋立られていました。見学を終えて室内へ戻り質問タイムがあり、埋立完了後2年間は継続して水処理や検査をされるそうです。また排出事業者として最終処分地確認、見学を推奨するとのことでした。

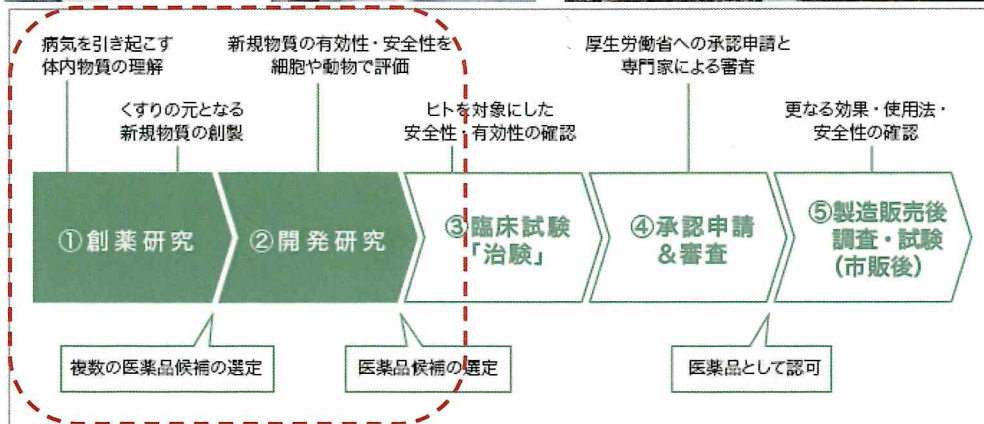
施設見学を終え帰路へ。大船駅前バスを降り、大船おでんセンターで交流会が開催されました。午後からは小雨がぱらついた天気ではありましたが、大変充実した見学会を終え、和やかに歓談が行われ閉会となりました。

(株)大倉製作所 尾茂田 剛



企 業 紹 介

1966年に日本ロッシュ鎌倉工場として鎌倉市梶原で操業を開始、現在は革新的な新薬を創出するために、当社独自の創薬技術を駆使しながら、新薬を創出しています。病気を起こす原因を理解し、薬の元となる新規物質を創製し、有効性や安全性を評価しています。




①②の研究を鎌倉研究所で行っています。

すべての革新は患者さんのために



中外製薬株式会社

 A member of the Roche group

事 業 報 告

平成30年 4月20日 (金)

◎平成29年度収支決算監査

会 場 菱栄テクニカ(株)・(株)中川電機製作所 (事務局持ち回りにて)

平成30年 4月24日 (火)

◎正副会長会議 (午後 3時30分～)

◎理事会 (午後 4時～)

会 場 鎌倉商工会議所

平成30年 6月 1日 (金)

◎第39回定期総会 (午後 4時～)

◎講演会「平成29年度 鎌倉市の廃棄物の取組み実績について (報告)」
(午後 4時30分～)

会 場 鎌倉商工会議所

◎交流会 (午後 5 時15分～)
会 場 銀座アスター鎌倉賓館

平成30年 8 月17日 (金)

◎平成30年度会員名簿を会員事業所へ配布

平成30年12月10日 (月)

◎正副会長会議 (午後 3 時～)
◎広報部会 (午後 3 時30分～)
◎理事会 (午後 4 時30分～)
会 場 鎌倉商工会議所
◎親睦会 (午後 5 時～)
会 場 仲の坂

平成31年 2 月22日 (金)

◎研修見学会
視察先 東京ガス扇島LNG基地 (横浜市鶴見区)
かながわ環境整備センター (横須賀市芦名)
◎交流会 (研修見学会終了後)
会 場 大船おでんセンター

編 集 後 記

私も「かいほう」の編集に携わる広報部会長を2年間務めてまいりましたが、今更ながら改めて「かいほう (会報)」の役割について考えてみました。会報を Google で検索すると、一番先頭に「会に関する事を会員にしらせるために発行する文書や雑誌」と書かれています。当協会の「かいほう」は、会長の「巻頭言」から始まり、「行政 (神奈川県、鎌倉市) からのお知らせ」、「活動報告 (研修見学会、事業報告)」、「企業紹介」で構成されており、会報としての役割は十分に果たせる内容になっていると思います。会員の皆様におかれましては、「かいほう」に記載されている内容を社内や関係のある企業様にお知らせいただき、当協会の活動をお伝えいただければ幸いです。そのような意味も込めて、今回の表紙には参加された方々のご意見もいただき、研修見学会で見学した「かながわ環境整備センター」の写真を掲載させていただきました。是非、「かいほう」の有効利用をお願いいたします。

広報部会長 田中 清 (三菱電機㈱情報技術総合研究所)

〈 広 報 部 会 〉

三菱電機㈱情報技術総合研究所	田中 清
㈱鎌倉ハム富岡商会	澤村 誠
中外製薬㈱鎌倉研究所	加藤 政裕
デンカ㈱大船工場	森 岳夫
ナスラック㈱ナスラック鎌倉工場	尾崎 直也